

推進施策6

都市農村交流による農村の元気創出

【取組内容】

- 地域住民や都市住民の交流拠点である農産物直売所において、農産物の集荷や弁当等の宅配など多様なニーズに対応するため、茂木町をモデル地区とし、「道の駅もてぎ」を拠点に農産物の集荷体制構築に向けた取組を支援しました。

効率的な集荷や出荷者の利便性の向上に向けた取組を引き続き支援するとともに、宅配や配食による買い物支援等の取組の検討・実施が継続して行われます。
- 滞在型のグリーン・ツーリズム(いわゆる「農泊」)の推進のため、県内2地域(芳賀、南那須)をモデル地域とし、地域関係者と農泊体験プログラムの検討やモニターツアーを実施しました。宇都宮大学や観光協会との協力、または、消費者モニターの農泊体験等を通して課題を抽出し、次年度の取組につなげていきます。
- いちごの収穫や加工、麦の種まきや麦ふみ等、シーズンを通じた農業体験を行うことにより、農村のファンやリピーターを獲得するための活動を行う地域組織等を支援しました。

平成28年度には4組織が取り組み、参加者は普段できない栃木県の農村ならではの体験や地域の方との交流をとりわけ喜び、また受入れ地域の方々にとっても地元の魅力を見直す機会となり受入態勢の強化を進めていくことの合意が図られるなど好評でした。



農業体験

【目標達成状況】

※1 上段は目標値、下段は実績値

目標指標	現状 H26	計画期間※1					年度目標 達成状況
		H28	H29	H30	H31	H32	
交流拠点施設の利用者数 (万人)	1,688	1,725 22,271	1,744	1,762	1,781	1,800	○

※2 ○…おおむね達成 △…達成できない可能性がある ×…達成は困難

【今後の取組】

- モデルの確立に向け、農産物の集荷に加えて、宅配や弁当の配食等の取組を支援
- 都市農村交流の促進を図るため、グリーン・ツーリズムや農業体験等の取組を引き続き支援